

ハシビロガモ（カモ科） 全長オス51，メス44センチ

ハシビロガモは他のカモ類と比べクチバシが大きく、よく目立ちます。嘴広鴨と書き、大きくて幅の広いクチバシが名前の由来のようだ。日本には主に冬鳥として渡来するが、北海道ではごく少数が繁殖しているらしい。

4月29日、大浦沼でハシビロガモのつがいが見つかった。同じ冬鳥として飛来していた、マガモやオナガガモ、ミコアイサ等とはとくに北の繁殖地に飛び去り、姿は見えません。

なぜこんなに遅くまで滞在しているのでしょうか。ここで繁殖するのではと、淡い期待が膨らみますが可能性はかなり低いようだ。



オスの頭部は光沢のある濃い緑色。

餌の採り方は独特です。

水面をぐるぐると円を描くように泳ぎ回って渦をつくります。中心にプランクトンや小さな草の実などを集め、扁平なクチバシを左右に振りながら水ごと吸い込み、クチバシにある歯ブラシ状なものでろ過し、餌になるものだけを食べているのです。



緑の背景と似合います。



羽ばたき

この様な方法で、ハシビロガモは水面に浮いたり水中を漂ったりしている、他のカモ類が利用できないような細かい有機物を食物とすることが出来るのです。クチバシが大きいのは伊達ではありませんでした。



目は黄色い。



手前のメスは地味で目立ちません。